

(57)

氏名(生年月日)	ヒ 氷	ムロ 室	ヒロシ 博
本籍			
学位の種類	医学博士		
学位授与の番号	乙第702号		
学位授与の日付	昭和60年2月15日		
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)		
学位論文題目	下垂体腺腫の超微形態学的研究		
論文審査委員	(主査) 教授 喜多村孝一 (副査) 教授 丸山 勝一, 教授 菊地 録二		

論文内容の要旨

研究目的

下垂体腺腫は従来、組織学的に光顕所見により分類されてきたが、現在は、ホルモン分泌能により内分泌学的に分類されている。本研究は下垂体腺腫のホルモン分泌能と形態学的所見との関連を電顕を用いて明らかにすることを目的とした。また bromocriptine の抗腫瘍効果を HGH 産生腺腫について検討した。

方法及び結果

東京女子医大脳神経外科に入院し手術を受け下垂体腺腫と診断された60例のうち45例について電子顕微鏡観察を行ない、内分泌学的所見と対比し、以下の結果を得た。

1) ホルモン非産生腺腫20例について：円形ないし類円形核を有するが不整形核もしばしばみられた。分泌顆粒は主として150~200nm 径の小円形顆粒で、この他に350~600nm 径顆粒が10例において観察された。

2) PRL 産生腺腫6例について：円形核並びに不規則形核を有す。150~200nm 径円形顆粒に加え、

350~650nm の不規則形顆粒をもつこと、粗面小胞体の層状構造、exocytosis の存在等がこの腺腫の特徴であった。

3) HGH 産生腺腫18例について：円形、楕円形核を有するが不整形核もみられる。100~300nm 径の円形分泌顆粒が全例にみられ、6例に350~800nm の大きな円形ないし不整形顆粒がみられた。ゴルジ装置、粗面小胞体がよく発達していた。

4) bromocriptine の抗腫瘍効果について：HGH 産生腺腫の bromocriptine 長期投与例では、分泌顆粒の増加とその電子密度の上昇傾向、粗面小胞体の減少と cistern の拡大、ミトコンドリアの crista の崩れ、空胞の出現等の所見を得た。これらは分泌顆粒放出抑制効果、抗腫瘍効果を超微形態上把握したものと考える。

5) FSH 産生腺腫について：1例であるが分泌顆粒は100~150nm 径顆粒が主体で時に250~400nm 径顆粒が存在し、ゴルジ装置は細長く、粗面小胞体は少なかった。

論文審査の要旨

本論文は、ホルモン分泌下垂体腺腫について電子顕微鏡観察を行ないホルモン分泌能を形態学的に追究し、あわせて bromocriptine の抗腫瘍性を形態学的に証明した価値ある論文である。

主論文公表誌

下垂体腺腫の超微形態学的研究

東京女子医科大学誌 第54巻 第9号
833~850頁 (昭和59年9月25日発行)

副論文公表誌

- 1) 下垂体腺腫の家族発生
脳神経外科 4 371~377 (1976)
- 2) 下垂体腺腫の組織培養における GH, PRL, LH,
TSH 分泌能の経時的変化
脳神経外科 5 1135~1141 (1977)
- 3) ヒト Prolactinoma の bromocriptine 療法および
ラット Prolactinoma の bromocriptine 効果の
形態学的観察
第 2 回下垂体腫瘍 workshop 講演集 105
~116 (1981)
- 4) 脳腫瘍の器官培養—走査電子顕微鏡による培
養態度の観察
脳神経外科 5 1343~1348 (1977)
- 5) Oligodendroglioma の電子顕微鏡観察
脳神経外科 11 147~154 (1983)
- 6) Osteochondroma の 1 例
脳神経外科 5 1079~1083 (1977)